

支援を組み立てるための基本Ⅱ


- ・強度行動障害の支援に必要な知識

(社福) 同愛会
竹矢 恒

この時間で学ぶこと

- 基礎研修で学んだことを振り返ります。
- 支援を組み立てるための基本的な流れを把握します。
- 実践研修の進み方と演習の構成を確認します。

この時間の流れ①



講義

①強度行動障害の理解

- ・障害特性の理解

②支援のアイデア

- ・障害特性に基づいた支援

③基本的な情報収集

- ・行動を見る視点

④特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

⑤チームプレイの基本

- ・チームプレイの必要性

⑥支援を組み立てるための基本

⑦実践研修の進み方と演習の構成

①強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

なぜ、自閉症の特性を整理するのか

- 自閉症の人たちは社会では少数派です。その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。「強み」は支援に生かすもので、「弱み」は支援者が配慮するところと言えます。それゆえ、特性の把握においては「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。

- 自閉症の人たちの物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。
- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

相手への関心が薄い

相手から期待されていることを理解することが難しい

相手が見ているものを見て

相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

周囲で起こっていることへの関心が薄い

周囲の様子から期待されていることを

理解することが難しい

見えないものの理解が難しい

☆ 自分がすべきことが明確であれば、
集団への適応が増す。

視点② コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

話し言葉の理解が難しい

一度にたくさんのかことを理解するのが難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

話し言葉で伝えることが難しい

どのようにして伝えたらいいかわからない

誰に伝えていいかわからない

視点② コミュニケーションの特性

【やり取りが難しい】

場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
やり取りの量が多いと処理が難しい

☆ 話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

段取りを適切に組むことが難しい

なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい

今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

先の予測をすることが難しい

臨機応変に判断することが難しい

自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③ 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

興味・関心が狭くて強い

細部が気になり違いに敏感

少しの違いで大きな不安を感じる

☆ 目の前に存在する視覚情報があると
わかりやすさが増す。

☆ 自分が興味・関心のある対象への思い
が強みになることも多い。

視点④ 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

聴覚の過敏や鈍麻がある

視覚の過敏や鈍麻がある

触覚の過敏や鈍麻がある

臭覚の過敏や鈍麻がある

味覚の過敏や鈍麻がある

前庭覚の特有の感覚がある

☆ 感覚に関する反応が、心身の状況や調子の
バロメーターとなることも多い。

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本にいつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、得意なことを把握することはとても大切です（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

② 支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

目で見えてわかる支援が基本

目で見えてわかる支援をするのはなぜか？

- 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
- 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
- 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

目で見えてわかる支援をするために

- わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある

= その人に合わせた支援

= 合理的配慮

確実に伝えたい6つの情報

- 「いつ」
- 「どこで」
- 「何を」
- 「どのくらい」
- 「どうやって」
- 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫（コミュニケーションツール）

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが1対1対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする。

方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

③ 基本的な情報収集

- ・ 行動を見る視点

「行動チェックシート」

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人の関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ク: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

「特性を把握する」という視点

- 個別の「障害特性」に対して周囲の「環境要因」がミスマッチな場合に、その環境に対しての不応行動が生じることがあります
- 本人は困らせている人ではなく、困っている人という視点が重要です
- 個別の困り感に対する合理的配慮が支援の基本となります
- その場合の合理的配慮は、目で見えてわかる支援のアイデアを活用することがスタンダードとなっています

行動を見る視点の大切さ

- ここまでの講義で、強度行動障害の状態にある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があることを学びました。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- 客観的に観察することで、行動の背景にはさまざまな苦手さがあることに気がつくことができます。

本人の行動は「困っている」サインかもしれません

■本人の行動をヒントに

■特性に気づき

■適切な支援を組み立てていくことで

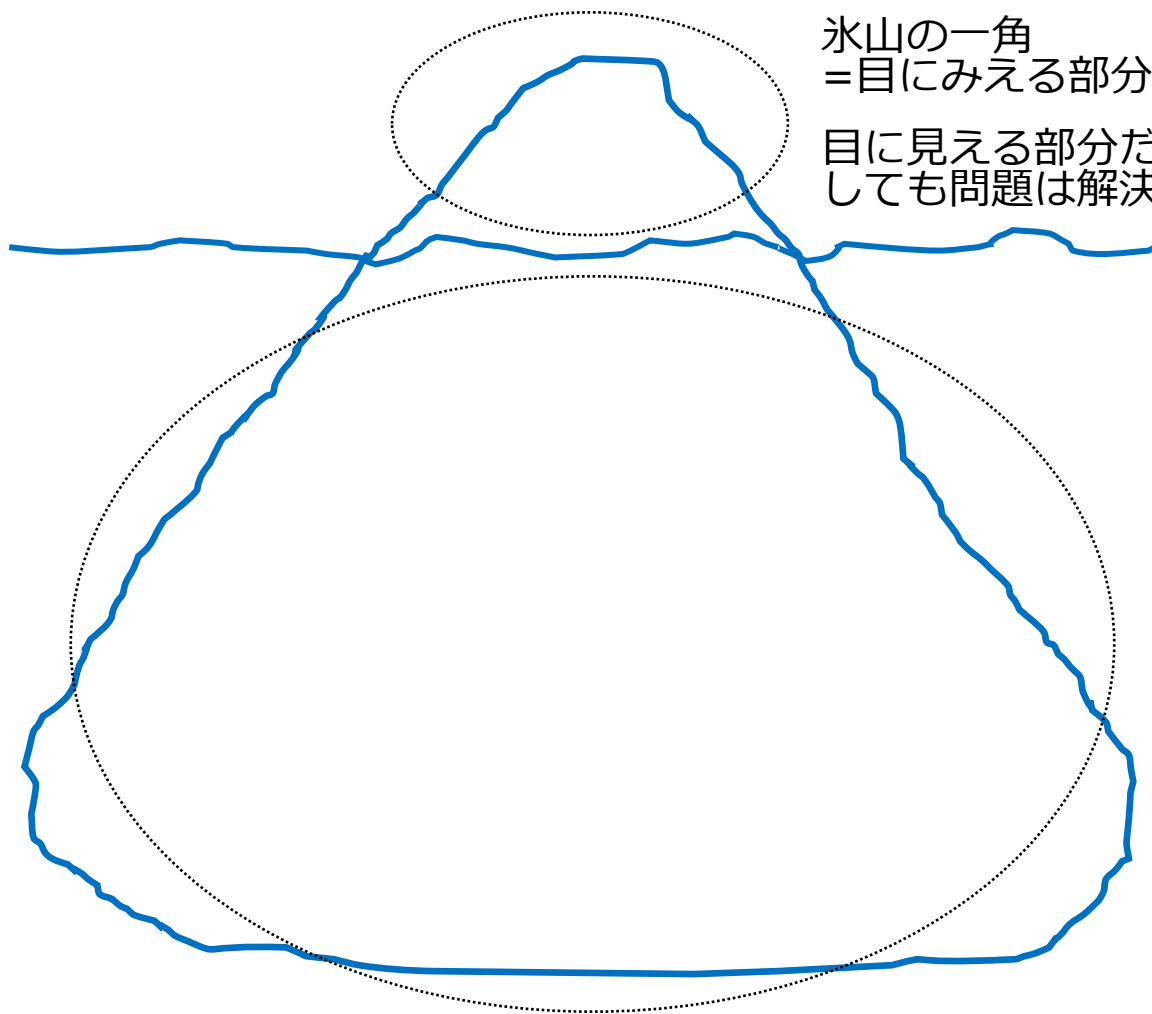


支援も本人の活動も成功しやすくなります

④特性の分析

- ・ 特性の把握と適切な対応

行動の背景を知るための「冰山モデル」



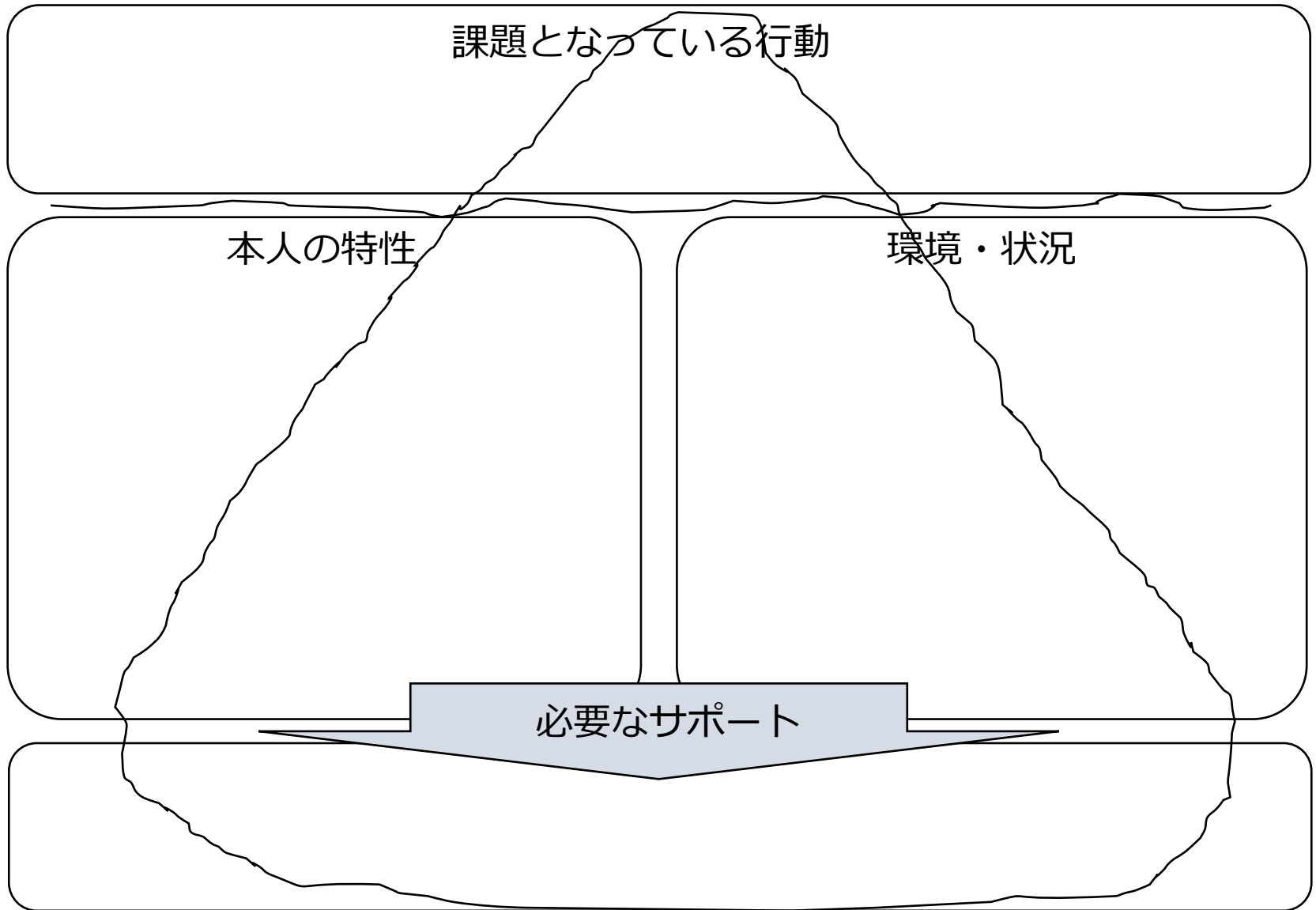
氷山の一角
=目にみえる部分

目に見える部分だけに対応を
しても問題は解決しない。

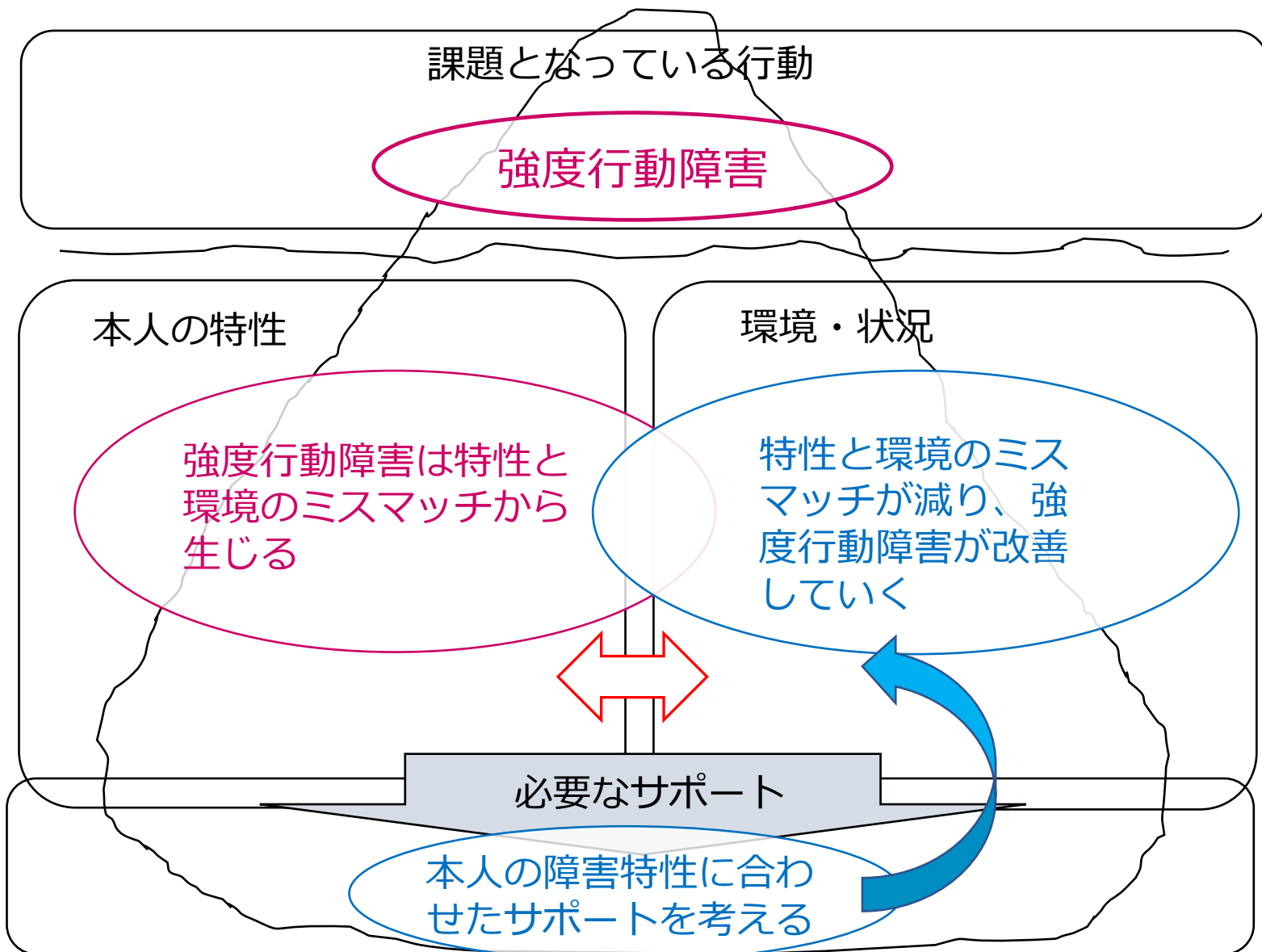
水面下に大きな塊がある
=目にみえない部分

目に見えない部分を理解して
アプローチすることで、表面
に出ている問題が小さくなる。

冰山モデルシート



氷山モデルシート



氷山モデルシートと補足シートの関係

行動チェックシート	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	1: 表現がない 2: 人や集団の関心に関与がある		
	3: 相手の気持ちに敏感な行動をする 4: 周囲に合わせて行動できない 5: 周囲の状況に対して興味を示さない 6: 危険や迷惑、社会のルールに関係ない行動をする		
コミュニケーション能力	7: 理解が難しい 8: 言葉で指示されても行動できない 9: 言葉で指示されたことと違うことをする 10: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーアクト）		
	11: 行動や仕事などで自分の気持ちを表現する 12: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない 13: 言葉は自分の気持ちを伝えるのに役に立たない 14: 言葉が聞き合えない 15: 言葉に反応がない 16: 言葉に反応があるが、適切でない		
想像力	17: 自分で予定を立てることが難しい 18: 自分で計画を立てることが多い 19: 自分でルールを定めて実行することが多い 20: 目標が変更されると混乱することが多い 21: 活動が途中でやめられ、変更することができない		
	22: 特定の物だけがこの空間で起る 23: 自分が周囲環境の変化に敏感に指示することができない 24: 自分がこの状況になっても対応することができない		
感情	25: 特定の物や状況に特定の感情を大きく表す 26: 特定の物や状況に特定の感情をあまり表さない 27: 特定の物や状況に特定の感情を表現する 28: 特定の物や状況に特定の感情を表現する 29: 特定の物や状況に特定の感情を表現する 30: 特定の物や状況に特定の感情を表現する		

特性確認シート	課題となっている行動（本人が困っている行動）『』	』	支援のアイデア
社会性	1) 相手の関心がない	A)	汲み取ってもらう。戻してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やり方の視点)
	2) 相手の気持ちに敏感な行動をする	B)	誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やり方の視点)
	3) 相手の気持ちに敏感な行動をする	C)	「いつ」「どこで」「何を」の情報を見つめる
	4) 周囲に合わせて行動できない	D)	よく伝える(方法の視点・やり方の視点)
	5) 周囲の状況に対して興味を示さない	E)	本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やり方の視点・見え方の視点)
	6) 危険や迷惑、社会のルールに関係ない行動をする	F)	本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やり方の視点・見え方の視点)
コミュニケーション能力	7) 理解が難しい	G)	本人に分けやすい言葉や変更を伝える(時間の視点)
	8) 言葉で指示されても行動できない	H)	始まりや終わりを分かりやすくする(時間の視点・場所の視点)
	9) 言葉で指示されたことと違うことをする	I)	活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点)
	10) 相手の言葉をそのまま繰り返す(エコーアクト)	J)	最初が正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
	11) 行動や仕事などで自分の気持ちを表現する	K)	苦手な刺激や頻度を少なくするための配慮をする(場所の視点)
	12) 言葉で自分の気持ちを伝えることができない	L)	好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
想像力	13) 言葉は自分の気持ちを伝えるのに役に立たない		
	14) 言葉が聞き合えない		
	15) 言葉に反応がない		
	16) 言葉に反応があるが、適切でない		
	17) 自分で予定を立てることが難しい		
	18) 自分で計画を立てることが多い		
感情	19) 自分でルールを定めて実行することが多い		
	20) 目標が変更されると混乱することが多い		
	21) 活動が途中でやめられ、変更することができない		
	22) 特定の物だけがこの空間で起る		
	23) 自分が周囲環境の変化に敏感に指示することができない		
	24) 自分がこの状況になっても対応することができない		

環境確認シート	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか(ことば・指差し・実物・絵に書いて等)	指示の順番は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするまわりの位置は適切ですか その他
	物	指示の順番は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするまわりの位置は適切ですか その他
場所	例をすべて場所なのか見ればわかるようになっていませんか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が配りやすい環境になっていませんか その他	例をすべて場所なのか見ればわかるようになっていませんか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が配りやすい環境になっていませんか その他
	状況	本人の体調はいつも以上になっていませんか その活動の前になるまでにはありませんか その活動の内容に本人の苦手な動作や感覚などが含まれていませんか その活動の目的(どうするの、どうなったら終わるのかなど)は理解できていますか その他
音	その場所にはどんな音がしていますか その中に本人が苦手なものがありますか	その場所にはどんな音がしていますか その中に本人が苦手なものがありますか
	気温	その場所の気温は何度くらいでしたか(あるいは暑かたに-寒かたに等) その気温は本人にとって快適なものですか
湿度	その場所の湿度は何度くらいでしたか(あるいは蒸気していた・乾燥していた等) その湿度は本人にとって快適なものですか	その場所の湿度は何度くらいでしたか(あるいは蒸気していた・乾燥していた等) その湿度は本人にとって快適なものですか
	臭い	その場所にはどんな臭いがしていますか その中に本人が苦手なものがありますか
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

強み(ストレングス)確認シート	本人の強み(ストレングス)	活かせるような場面や状況
強み(ストレングス)確認シート	わかること、できること 例) なにかのことがわかる、やめられるのを覚える(パワーストップの上手さなど)	
	好きなこと(遊び方、過ごし方、キャラクターなど) やたがること 例) ハンカチで顔を拭く、○○のキャラクター・ヒッツは見る、食べ物を食べる	
強み(ストレングス)確認シート	得意なこと(これには自信を持っているなど) 見方を覚えれば得意になれること 例) 目的がわかれば待つことができる、変更は苦手なだけなら同じことではできない	
	その他	

行動チェックシート

特性確認シート

環境確認シート

強み確認シート

支援のアイデア

氷山モデルシートと 補足シートの関係

行動チェックシート

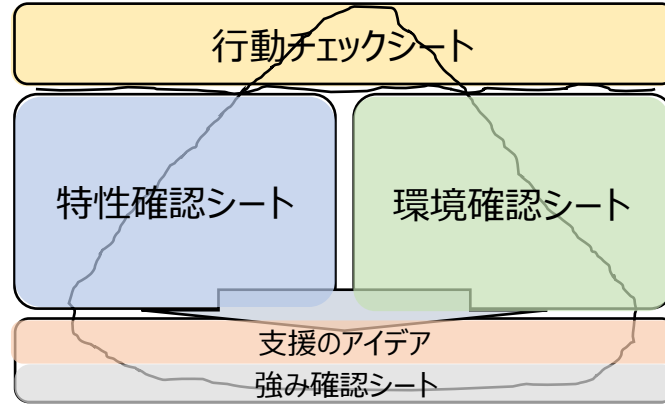
項目	内容	達成状況
1. 目標設定	目標を設定し、達成するための計画を立てる。	
2. 計画の実行	計画に従って行動し、進捗を確認する。	
3. 振り返り	行動の結果を振り返り、改善点を見つける。	
4. 継続	良い習慣を継続し、目標達成を目指す。	
5. 他者との連携	必要に応じて他者と協力し、目標達成をサポートする。	
6. 柔軟な対応	状況の変化に応じて計画を柔軟に変更する。	
7. 自己肯定	小さな成功も認め、自己肯定感を高める。	
8. 学習	失敗から学び、今後の行動に活かす。	
9. 健康維持	健康的な生活を送り、行動するための体力を維持する。	
10. 感謝	周囲の人や物事に感謝し、ポジティブな気持ちで行動する。	

特性確認シート

項目	確認事項	確認結果
1. 性格	自分の性格を理解し、強みや弱みを把握する。	
2. 価値観	自分の価値観を明確にし、行動の指針とする。	
3. 能力	自分の能力を客観的に評価し、向上させる。	
4. 興味	自分の興味のある分野を追求し、知識を深める。	
5. 強み	自分の強みを活かして、目標達成に貢献する。	
6. 弱み	自分の弱みを克服し、成長の機会とする。	
7. 学習スタイル	自分に合った学習スタイルを見つけ、効果的に学ぶ。	
8. 時間管理	自分の時間を効果的に管理し、優先順位をつける。	
9. 決断力	必要な時に決断し、行動に移す。	
10. 柔軟性	状況の変化に応じて柔軟に対応する。	

強み（ストロング）確認シート

項目	確認事項	確認結果
1. 強み	自分の強みを客観的に評価し、向上させる。	
2. 価値観	自分の価値観を明確にし、行動の指針とする。	
3. 能力	自分の能力を客観的に評価し、向上させる。	
4. 興味	自分の興味のある分野を追求し、知識を深める。	
5. 強み	自分の強みを活かして、目標達成に貢献する。	
6. 弱み	自分の弱みを克服し、成長の機会とする。	
7. 学習スタイル	自分に合った学習スタイルを見つけ、効果的に学ぶ。	
8. 時間管理	自分の時間を効果的に管理し、優先順位をつける。	
9. 決断力	必要な時に決断し、行動に移す。	
10. 柔軟性	状況の変化に応じて柔軟に対応する。	



強み（ストロング）確認シート

項目	確認事項	確認結果
1. 強み	自分の強みを客観的に評価し、向上させる。	
2. 価値観	自分の価値観を明確にし、行動の指針とする。	
3. 能力	自分の能力を客観的に評価し、向上させる。	
4. 興味	自分の興味のある分野を追求し、知識を深める。	
5. 強み	自分の強みを活かして、目標達成に貢献する。	
6. 弱み	自分の弱みを克服し、成長の機会とする。	
7. 学習スタイル	自分に合った学習スタイルを見つけ、効果的に学ぶ。	
8. 時間管理	自分の時間を効果的に管理し、優先順位をつける。	
9. 決断力	必要な時に決断し、行動に移す。	
10. 柔軟性	状況の変化に応じて柔軟に対応する。	

冰山モデルシートが完成しました

課題となっている行動 水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やることが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

人：支援者はことばで指示を出している
物：水道が見えやすい場所へ出かけている
場所：公園での目的が柵でゆれるか、水道で遊ぶかに見えていた
状況：どうなったら終わりかがわかりにくい
状況：公園に何をしに行ったのかわからない

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報で伝える
- G) 本人にわかりやすく予定を伝える

(活かせそうな強み→活かせそうな場面)

- ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる→活動の切り替えにお茶を使えないか
- ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある→イラストで活動を知らせられないか
- ・物に注目できる→タイマーなどで終わりを伝えられないか
- ・揺れる感覚に没頭することがある→揺れる感覚で適切な遊びを提供できないか

まとめ

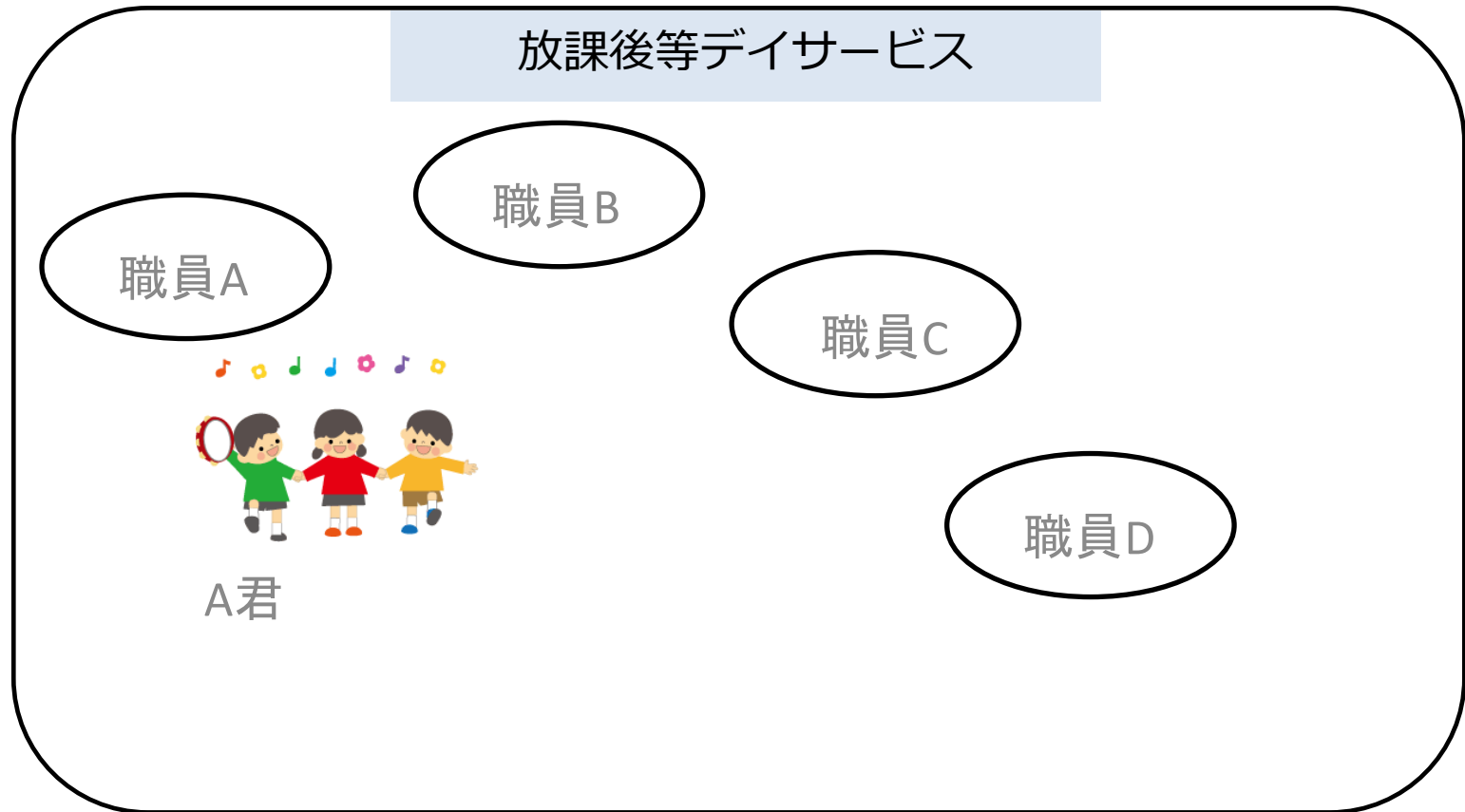
- 課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方が有効
- 「本人の特性」と「環境や状況」を整理し課題となっている要因を明らかにすることが根拠に基づいた適切な支援の第1歩
- 導き出された支援のアイデアは、本人の強みを使って具体化される

⑤ チームプレイの基本

- ・ チームプレイの必要性

チームで支援する必要性

事業所の中では、複数の職員が本人に関わります。



本人の現在の生活は、さまざまな関係者で支えられています。

家



学校



放課後



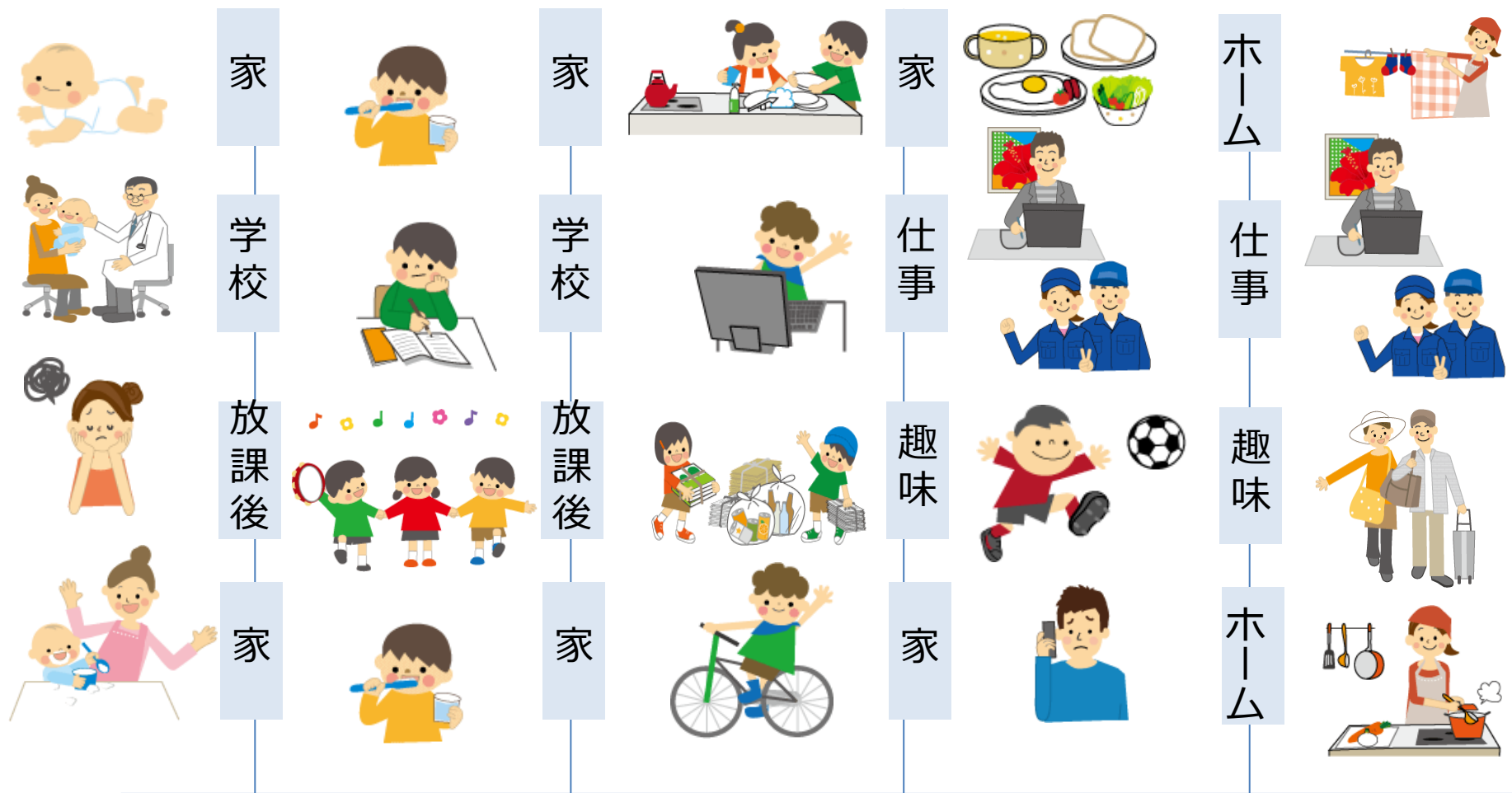
A君の生活（24時間）のうち、
放課後等デイサービスにいるのは3時間ほど

家



現在
7歳

本人の支援は、現在の関係者だけでなく、 過去・現在・未来の関係者もつながっています。



産まれてから今
まで。家族・発達
支援・医療等

現在
7歳

6年後
13歳

11年後
18歳

21年後
25歳

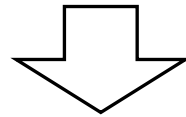
- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

関係者が必要な支援や特性を共有することが重要

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく、
思い思いのやり方で接してしまうと・・・



本人が混乱してしまう。

それぞれの場面やライフステージにおける関係者が、本人を支えるチームのメンバーとして、本人の特性や配慮すべきことについて共通の認識を持ち、同じ方針に沿った統一した支援をしていくことが大切。

統一した支援をするために

チームにおける情報共有や連携の方法

- 日ごろからお互いに頻繁なやり取りをする
- 個別の支援会議（ケース会議）を開催
- サービス等利用計画
- 個別支援計画
- 支援手順書

サービス等利用計画・
個別支援計画・支援手順書

本人ニーズに基づく支援計画

「本人ニーズ」

夢や目標、支援してほしいこと、困っていること

- ・ コミュニケーションの苦手さを補う支援
- ・ 困りごとの背景にある障害特性や環境要因を知る
- ・ 自己決定のための本人にあった情報提供

本人ニーズに基づく支援計画を考えるためには、
特性の理解とアセスメントの視点が欠かせない

サービス等利用計画



ご本人の望む生活に対し、支援機関がそれぞれどのような役割を果たしチームで支えていくことを示したものの。

ご本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム



就労支援

全体の計画



相談支援

個別支援計画



サービス等利用計画で示された役割を基に、支援機関ではどのような目標をもち、何に配慮して支援をするのか、具体的な目標と支援内容を記入した計画

ご本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム

個別支援計画



就労支援

個別支援計画

全体の計画



相談支援

支援手順書



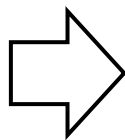
個別支援計画の内容から、具体的な活動とそのスケジュール・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの

具体的な活動の例



グループホーム

個別支援計画



(スケジュール確認)

支援手順書

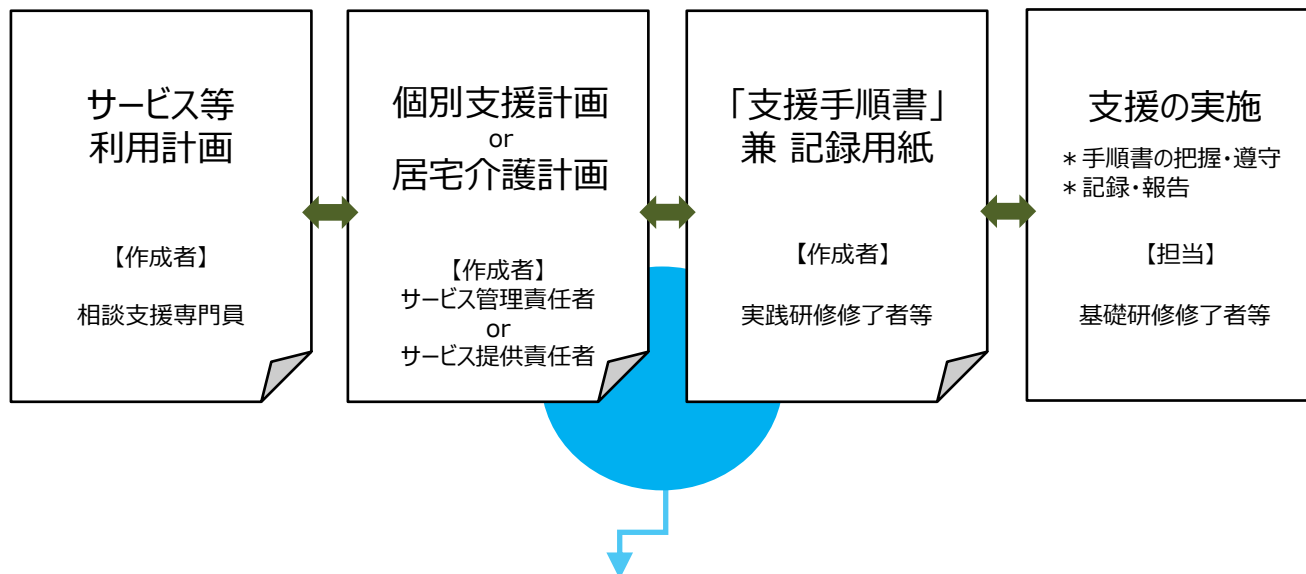


(お風呂掃除)

支援手順書

具体的な活動や必要な配慮

個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

「支援手順書」の例 1 (文字)

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 静養室（スケジュール）→静養室（着替え）→静養室（休憩）→アラーム（9:50）→作業室
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】 作業室→静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（お茶休憩）→アラーム→作業室
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）→静養室

【連絡事項】

- 活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- 静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ロッカーは静養室に移動しました。着替えは静養室で行ってください。
- ○○さんと動線が重ならないように注意してください（特に朝、休憩時間）
- 自立課題終了後、帰りの準備をするまでに20分間の休憩が入ります。

【問合せ事項】

「支援手順書」の例2 (文字)

(● ● ●) 支援手順書

時間	活動	サービス手順		メモ
		本人の行動	支援者	
16:00	おやつ	スタッフルームにて、おやつ、飲み物をもらう	カード提示により、本人におやつ、飲み物を渡す	
		中庭を3~5周歩く	時間によって、回数提示を変える(1周約5~6分)	
17:00	部屋で作業	三段BOXにある作業を上から行う	時間によって量を調節する	
17:30	夕食	食堂に移動	スムーズに移動できない場合はカード提示する	
18:00	歯磨き	歯磨きを行う	仕上げ磨きを行う	
18:30	入浴	入浴準備(タオル、シャンプー、	常同行動が見られる場合は、~	

【緊急時のとき】

【気をつけておいてほしいこと】

・常同行動により、一つ一つの活動に参加するまでの時間が多大になることが多くみられている。また、他の利用者にこだわり、それが原因でトラブルになることも多く、そうなったら、他の~利用者を一時的にその場から離れてもらうなど、距離を置いて20分ほど様子を見る。

「支援手順書」の例3 (写真)

Kさん 支援手順書

起床時対応 (当直明け)



当直明け
職員が準備
6-30



押し入れ中の作業題材をテーブル横



- ① 布団干し
- ② トイレ
- ③ 着替え
- ④ ひげそり
- ⑤ 掃除
- ⑥ 新聞 (時間がなければ無し)
- ⑦ ごはん
- ⑧ 歯みがき
- ⑨ 部屋で作業
- ⑩ 朝の会



声かけは
シンプルに。

日課の説明

職員がカードを指さしながら、
本人に読んでもらう
(活動内容の説明は要りません)



本人が一番上のカ
ードを取り、カ
ード入れに入れる

自分でやらせてもら
うことが大切

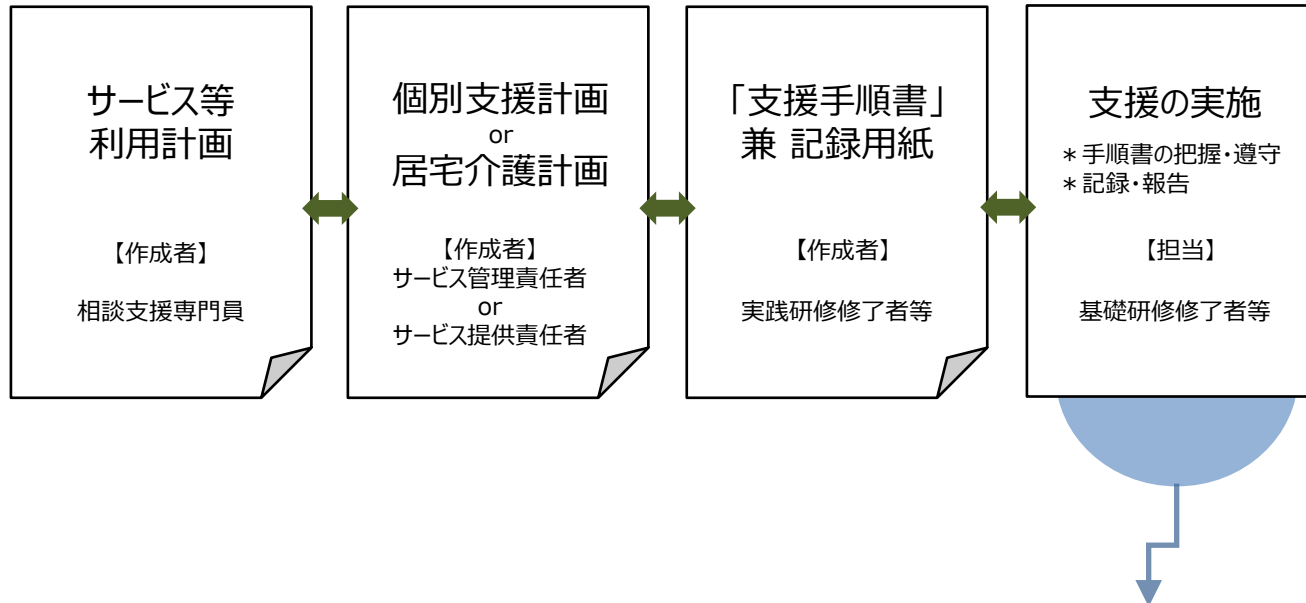
※ 別途記録用紙あり

現場で支援を実施するときには、支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援

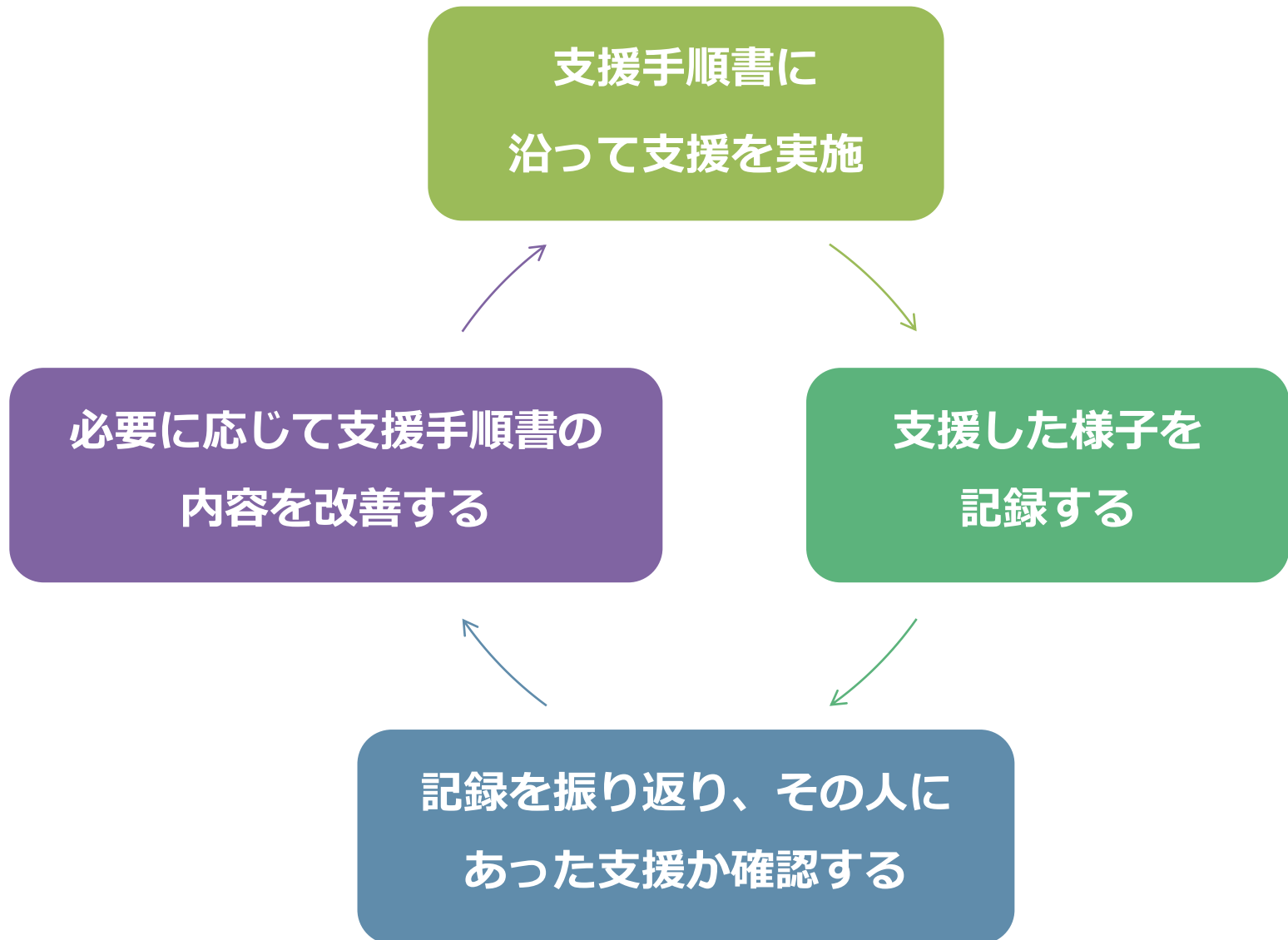
支援の実施と記録

支援の実施と記録



実際の支援に入る時には、支援手順書に沿って支援をすること、支援時の本人の様子などを記録しておくことが大切。

支援の実施



情報共有のベースとなる記録

- ・ 具体的な状況を記録する
- ・ 支援者の主観と具体的な状況をわけて記録
- ・ 「いつ・どこで・誰が・どのように」を意識する
- ・ 読み手を意識する

→具体的な状況を共有することで、支援者の共通認識を持ちやすい

支援の効果を確認する

- 支援に取り組んだ結果が記録として残っていると振り返りしやすい
- 支援の結果を振り返りながら、その支援が適切かどうか？改善点があるか？を確認していく

計画の見直し

- 記録をもとに
 - 上手くいった支援は継続・発展させる
 - 上手くいかなかった支援は見直しする
- = 見直しを繰り返しより本人にあった
支援手順書に

⑥ 支援を組み立てるための基本

- ・ 支援を組み立てるための基本的な流れ

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

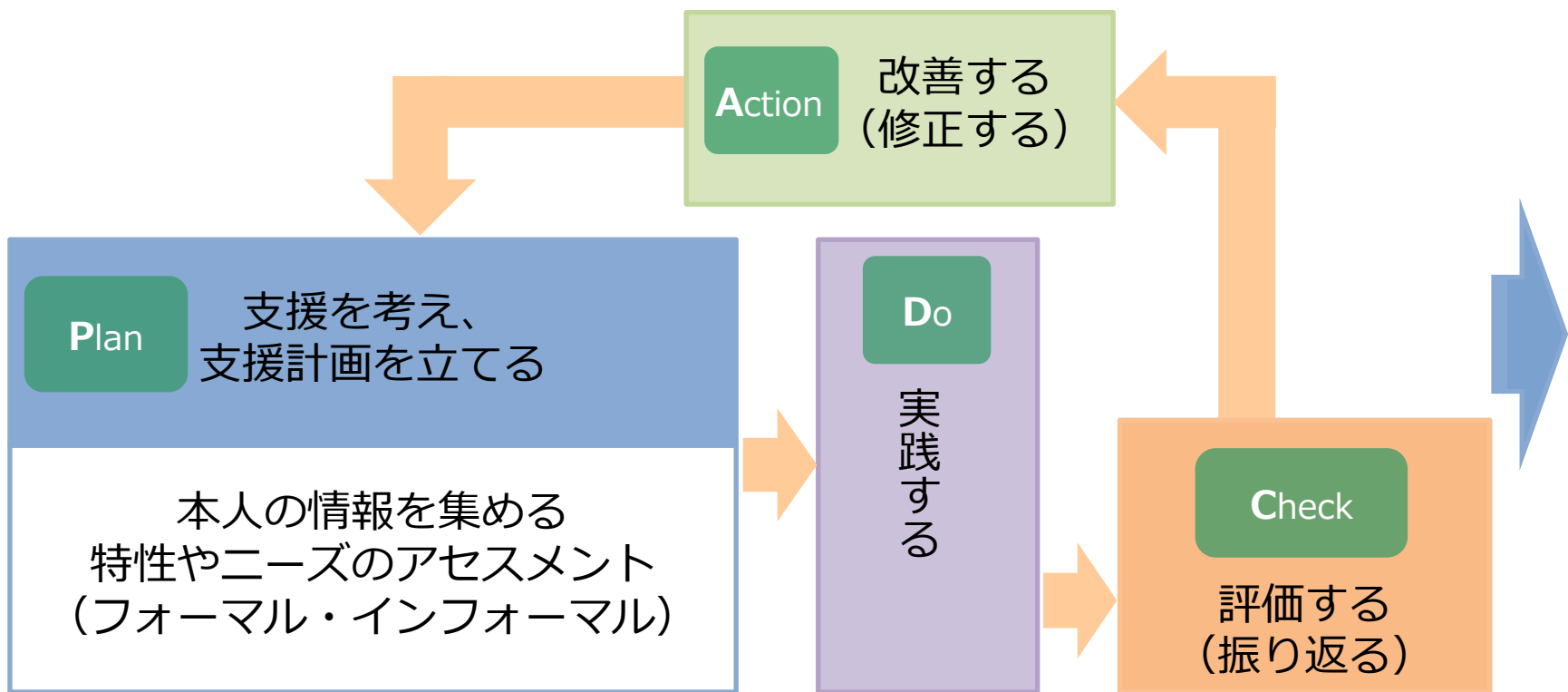
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、Ⅲについて主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



よりよい人生へと向かう

予防的で基本的な支援

実践研修修了者が目指すもの

【支援手順書の作成】

- ・強度行動障害が表出しているケースに対し、基礎研修で学んだことを踏まえながら支援手順書を作成する。

【支援手順書の内容と記録方法を伝達する】

- ・支援の統一に向けて、「支援手順書」のサービス提供方法と日々の支援の記録方法について、現場スタッフに正確に伝達する。

【検証と修正】

- ・一定期間実施した支援の結果を取りまとめ、サービス管理責任者および現場スタッフと相談し、支援方法の変更や継続について議論する。

⑦実践研修の進み方と 演習の構成

実践研修の進み方①

① アセスメントの方法

演習1

- ・ 具体的なアセスメントの方法
(行動チェックシートの記入)

演習2

- ・ 障害特性に基づくアセスメント
(冰山モデルの作成)

② 支援手順書の作成

演習3

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成 (1)

演習4

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成 (2)

③ 記録の分析と支援手順書の修正

演習5

- ・ 記録の方法
- ・ 記録の分析と支援手順書の修正

実践研修の進み方②

④組織的なアプローチ

講義 1

- ・ 組織的なアプローチの重要性



⑤実践報告

講義 2

- ・ チームの支援の実際



⑥関係機関との連携

演習 6

- ・ 医療機関との連携方法

演習の構成



- ・ 演習 1 から演習 5 まで順番に行うことが、支援手順書を作成するプロセスとなります。

【演習全体で学ぶこと】

- ① 支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法
- ② P D C A サイクルの流れで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法